

令和6年度第1回 安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和6年7月4日（木）午後2時～3時30分	
場 所	安城市役所本庁舎3階 災害対策本部室	
出席者	委 員	石川会長、中尾副会長、飯尾委員、小林委員、浅田委員、岩井委員、片岡委員、竹本委員、棚橋（昭）委員、土井委員、野村（勝）委員、野村（俊）委員、久恒委員、渡邊委員、池端委員、石原委員、藤田委員 17名
	事務局	環境部長、環境都市推進課長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室長、環境都市推進課環境政策係長、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室温暖化対策係長、環境都市推進課職員
次 第	1 環境部長あいさつ 2 会長選出 3 議 題 （1）第2次安城市環境基本計画の進捗状況について （2）安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の構成（案）について 4 その他	
資 料	・令和6年度安城市環境報告書 ・第2次安城市環境基本計画 令和6年度アクションプラン ・（資料1）第2次安城市環境基本計画の進捗状況について ・（資料2-1）安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の構成（案）について ・（資料2-2）戦略体系図 ・第2次安城市環境基本計画	

1 環境部長あいさつ

2 会長選出

3 議 題

（1）第2次安城市環境基本計画の進捗状況について

<説明事項>

【事務局】

（資料1：第2次安城市環境基本計画の進捗状況について）

- ・令和5年度アクションプラン実績報告
- ・令和6年度アクションプラン事業紹介

### <報告に関する質問・意見>

**【野村（勝）委員】** 第2次安城市環境基本計画を令和8年度に見直しをする際に検討してもらいたいことがある。安城市では農地の多面的機能が重要な役割を担っていると考える。例えば、よく報道される「田んぼダム」は、10aの田んぼに5cm水を張るだけで50tの水が貯められる。安城市では3,000haの水田があるので、東海豪雨のような水害時にこの田んぼダムの機能が充実していれば、被害を抑えられるのではないだろうか。また、田んぼに水があることで空気が冷やされ、涼しくなるという機能もある。この多面的機能の部分を、柱2自然・都市共生の項目にぜひ反映してもらいたい。

**【事務局】** 田んぼダムについては、本市も水田貯留事業を推進している。来年度は第2次安城市環境基本計画の改定の年になるため、ご提案いただいた内容を本市の関係課と調整しながら検討していきたい。

**【浅田委員】** 令和6年1月にプラスチックごみの回収方法が変更になり、安城市消費生活学校で学習会を開いたが、回収されたごみがどのように再生利用されているか市民に届いていない。もう少し具体的に市民に知らせてほしい。

**【事務局】** 回収されたプラスチック資源は中間処理を経て、再商品化事業者によって新しいプラスチック製品に生まれ変わっており、きちんとリサイクルされている。市民の方に知ってもらえるよう関係課と調整していく。

**【岩井委員】** 10ページの温室効果ガス排出量の数値はどのような数値か。産業界を含めた全市の排出量数値という理解でよいか。

**【事務局】** そのとおりである。

**【久恒委員】** わくわくネイチャースクールの参加人数が対象者に対して少ないと感じる。実際には何名の申込みがあったのか。また、安城市でも明治用水会館など自然環境を学ぶことができる。例えば、地域の川の水質を調べたり、もっといろんな人が身近なところで水の大切さを子どもの頃から感じるような事業をしていただけるとありがたい。

**【事務局】** わくわくネイチャースクールの申込みは117名で、定員80名を上回ったため抽選となった。本市で水環境を学ぶ事業としては、わくわくネイチャースクール以外にも水のかんきょう学習館やあつまれねばの森というイベントを開催している。そのほか環境協働事業の中でも、市内の川で川遊びや生き物観察会を行って

る。さまざまな事業を通して多くの子どもたちに環境の大切さを啓発していきたい。

**【石川会長】** 安城市は日本デンマークと言われており、50年前は遊ぶ川がたくさんあった。今は川で遊ぶ機会が少ないことから水に関する教育が難しいと思うため、事業を継続してほしいと思う。

**【中尾副会長】** 11 ページの柱4 地球温暖化対策について、都市ガスを燃やしてカーボンニュートラルになるというのは分かりにくい。カーボンオフセットという言葉を追加した方が良い。

**【事務局】** どのような形でオフセットし、カーボンニュートラルになっているか見えづらいため、コメント等で補足する。

**【中尾副会長】** この2つの電気・ガスは安城市の供給事業ということか。

**【事務局】** 廃棄物のエネルギー自体は本市の環境クリーンセンターで発電しており、発電したエネルギーを供給するという形の事業である。一方、カーボンニュートラルな都市ガスの実態としては、カーボンオフセットされた都市ガスを東邦ガス株式会社から購入して、それを公共施設へ供給するものである。

**【池端委員】** ゴミのポイ捨てについて、名古屋市は罰金をとっているが安城市はサイクリングロードなどにゴミが捨ててあっても罰せられない。警察と連携して罰金をとってはどうか。

**【事務局】** 本市はさわやかマナー条例があり、ポイ捨てをしてはいけないことを知らない市民に対して啓発事業に力を入れている。まずは周知を進めていく。

(議題に対して異議はないことでした承)

## (2) 安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の構成(案)について

### <説明事項>

#### **【事務局】**

(資料 2-1 : 安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の構成(案)について)

(資料 2-2 : 戦略体系図)

## <報告に関する質問・意見>

【片岡委員】環境基本計画があって、そのもとで戦略を立てるという流れだと思うが、基本計画と戦略との位置づけをどのように理解すればよいか。

【事務局】環境基本計画の4つの柱の1つとして、地球温暖化対策があるが、現状では方針だけを示していて、具体的な取り組みについては記載がない。そのため環境基本計画の柱の1つになっているところを、あえて今回別に取り出した状態にして、方針だけでなく具体的な行動をまとめていくものとしている。

【片岡委員】これは意見だが、どこかで基本計画の4つの柱と、この戦略の位置づけ・関連付けがあったほうがわかりやすいのではないか。基本計画のアクションプランでもすでに具体的に行動を示されているので結びつきがあるとわかりやすい。

【事務局】おっしゃる通り。例えば戦略の柱4循環型社会形成の推進があるが、環境基本計画では柱3資源循環に該当しており、重複する部分がある。最終的には戦略の取組に紐付ける具体的事業の実施状況について、環境基本計画のアクションプランに集約するような形で進捗管理を図りたいと考えている。

【片岡委員】上記については了解した。  
戦略は区域施策編の位置づけということだが、柱6の市役所における脱炭素の行動については事務事業編と重なる部分があるのではないか。

【事務局】柱6市役所の脱炭素施策の推進は、事務事業編で管理していく事業となる。ただ、安城市役所も市内の1事業者という位置づけであるため広義では区域施策編に含まれる。また、市役所が率先して行動し、市民や事業者へと展開することも区域施策編の取り組み内容として非常に重要と考えているため、あえて柱6という形で位置づけしている。

【片岡委員】了解した。市役所という定義は市役所本庁舎だけでなく、市の政策ということで理解してよろしいか。

【事務局】おっしゃる通り。公共施設や公用車などを含めて市役所の事業としている。

【藤田委員】2030年までの対策をしようとしているのに、現在2024年度なのであと6年しかない。その状況で、これから具体的な案を出して、それに数値目標をつけて実行していくというのはあまりにも対応が遅いと感じる。もっとスピード感を上げてほしい。

また、21 ページの減らす排出量 715 千 t のうち 9 割は国が削減を行うため、市役所が対策するのは 10.5 千 t と非常に少ない数値になっている。戦略体系図では、国が減らす部分についても市が独自対策をやるのか。それとも啓発だけなのか。

次に、しっかりと戦略体系図の数値目標の割付をやってほしい。できれば市役所の事業に数値目標を付けて、その結果が伴うといった予算と実行の管理をしっかりとやってほしい。そうでなければ、国が目標を達成できなかった場合、安城市も未達成となってしまうため、少しでも責任を持ってやるということなら、市役所では予算に実績を関連付けて進めていただきたい。

**【中尾副会長】** あくまでもゼロカーボンシティ戦略なので、ゼロカーボンと言ったら世界的に 2050 年を目指している。そのため、この戦略についても先々を見た上で、途中段階の目標値という考えでいいのではないかな。

**【事務局】** 確かに残り 6 年であり、スピード感は当然我々も必要だと思っている。また、先ほど第 2 次安城市環境基本計画の説明で新規事業等も紹介させていただいたとおり、この戦略を策定してから動いていくわけではなく、必要な施策は戦略の完成を待たずに既に開始しているところである。この戦略では、改めて目標達成のために必要となる CO<sub>2</sub>削減量と、それを達成するために具体的に市役所独自の事業をどのように実行していくか明確にしたいと考えている。戦略の本編には取組までしか記載しないが、その下には具体的事業が紐づいている。我々が各課を回ってヒアリングを行い、2030 年までにどういった事業を具体的にやるべきか、という部分を今回設定している。残された時間は少ないが、今回設定した具体的事業を着実に実行し目標達成につなげたい。

また、決して国に任せきりではない。もちろん国連携取組については、市としては周知啓発が中心となるが、例えばスマートハウスの補助金では、国・県の補助金もありつつ市としても補助をしているといったように、しっかりと国の政策を推進できるような形で連携し、国の示す方向性と合わせて対応していきたい。

また中尾副会長がおっしゃるように、あくまで最終目標は 2050 年度であるが、その一方でやはり 2050 年カーボンニュートラルを達成するためには、2030 年をどういった状況で迎えるのかというところが非常に重要だと認識している。

**【久恒委員】** クールシェアスポットを作っていただき感謝する。この事業の目的は 2 つあり、1 つは省エネ対策、もう 1 つは熱中症対策だと考えているが、熱中症対策が弱いのではないかな。例えば経口補水液や塩飴、自動販売機や給水所がスポットにあるのか。全施設で避難をしてきた人に対応できるものを用意するとより良い。

**【事務局】** クールシェアスポットで、熱中症対策のための飴やタブレット等を配布してはどうかという意見と理解した。他市でそのような事例があることも承知して

いる。その一方で、本市が本事業を開始するにあたっては、なるべく多くの民間店舗等を巻き込みたいと考えていたなかで、店舗でドリンクや飴・タブレット等を販売している場合もあるため、そのような場で無料配布を行えるかという課題もある。今年度初めての事業なので、対応できるかどうか次年度に向けて検討していきたい。

**【土井委員】** 施策1 脱炭素型ライフスタイルへの変革について意見がある。現在、「脱炭素エキデン」を自身で実施している。アプリを入れて歩数や時間、あるいはペットボトルではなくマイボトルを使うことで、どれだけ脱炭素化できるのか見える化できる。様々な方法があると思うが、市民、事業者、行政の方が身近で簡単で面白いと感じてもらえる方法がよい。先ほどCO<sub>2</sub>削減だけでなく副次的効果の話もあった通り、楽しく続けられるような活動をぜひ市の方も推進していただきたい。

**【事務局】** 委員がおっしゃる通りで、簡単に楽しくやれることで省エネルギーに繋がっていくのが理想的だと考えている。そのような取り組み等も周知啓発というところで広く市民・事業者の方に伝えていきたい。

**【土井委員】** 聞くところによると、大阪府は「脱炭素エキデン」を推進している。そういったところで市が先頭に立ち、多様な連携になればよい。

**【石原委員】** 32 ページの環境クリーンセンターの改良工事はとても興味がある。どのように改良をするか話せる範囲で教えていただきたい。

**【事務局】** 環境クリーンセンターについては基幹改良工事といって、処理機械の更新を予定している。現在その設計が始まっている状況である。再エネとの関連性は、燃やしたときの蒸気で発電しているが、発電機の容量を大きくすることによって、同じごみの量を燃やした場合でも、より多くの電力が生まれるという改良を想定している。余剰電力が多くなれば、より多くの公共施設等に供給することが可能になるので、一層のカーボンニュートラルが推進できると考えている。

**【中尾副会長】** 35 ページの農業分野のところだが、この戦略ではメタンは対象になるのか。

**【事務局】** メタンは、この戦略では対象外である。ただ安城市は水稻栽培が盛んであることから、田んぼからのメタン発生は対応すべき課題と考えている。どのような対策ができるか検討を進めていきたい。

(議題に対して異議はないこと了承)

## <総括>

**【飯尾委員】** この戦略で実際に動くのは市民だが、危機感で煽ったり義務感で追い詰めたりすることは苦しさを感じる。地域が良くなっていくイメージやメリットを伝えていくことが大事だと思うので、それを軸として啓発をしてほしい。「啓発活動」というと重いので、イベントに落とし込んでいくことも大切である。

また、意識が高いか低いかということは気付いているか気付いていないかだけだと思う。さらに、その基本的なところを知っているか知らないかということがあがる。市民に対しわかりやすく情報を伝えることが大切であるため、土井委員がおっしゃったような身近で簡単な活動などを紹介していくとよい。市民に対して、具体的に分かりやすく伝えていくことが目標を達成する鍵となるので、その点を考えてもらいたい。例えば、熱中症対策についても、この危険な暑さを脱するためにはどうしたらいいのかという情報を積極的に発信してほしい。

「市役所も1事業者である」という考えは良いと思う。1事業者として他の事業者との連携の証を見せられるとよい。

**【小林委員】** 安城市の戦略は非常にレベルが高いので、内容には自信を持ってほしい。戦略案の作成にあたり、市は関係者と話し合い、意見を集約し、実行可能なのか確認しながら作ったと聞いている。ぜひ市民に内容の価値を共有してほしい。

要望としては、安城市の1人当たりのCO<sub>2</sub>排出量（産業部門を除く）が全国的にどのくらいのレベルなのかを示してもらいたい。

また、ガソリン1Lを燃やすとどのくらいのCO<sub>2</sub>が出るのか、電力1kW1時間つけるとどのくらいCO<sub>2</sub>が出るのかということ、ものさしとして示してもらいたい。そして、町の飲食店や服屋など、身近にある店と連携をするなど生活環境に密着した計画を考えてもらえるとよい。ペットボトルではなくマイボトルに変えるといった話もあったが、そのような案を出してもらえると市民としても受け止めやすくなる。市民にはあまり我慢しない方法がいいと思う。

大きな喜びと少しの我慢といったことを考えて戦略を作ってもらいたい。

## 4 その他

### <説明事項>

#### 【事務局】

次回の環境審議会は、令和6年12月5日(木)午後2時からを予定